

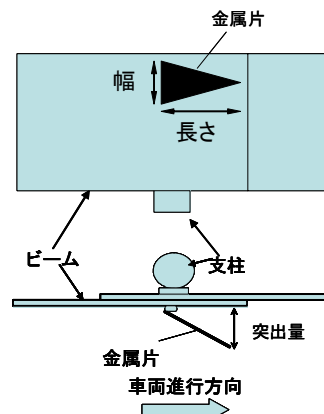
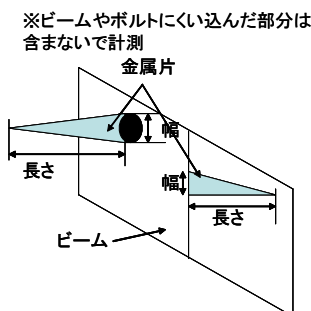
2. 金属片の付着状況調査

2 - 1 防護柵への付着金属片に関する
調査票の記載要領

防護柵への付着金属片に関する調査票の記載要領

共通記入要領（重要）： 金属片1つにつき1行を記入
 数値には単位を記入しない
 数字、記号は半角で記入
 分からない場合は「不明」と記入
 9－14以外の項目は記載要領に示すもの以外の表現（例. 少し〇〇、やや〇〇）
 を付加して記入しないで下さい

1. 整備局名、県名、事務所名、出張所名：（例. 関東、埼玉、大宮国道、浦和）
2. 路線名： 路線番号を「R〇」と記入、バイパス等は当該路線が特定できる様に記入
- 3-1. 通し番号： 各事務所を通して整理している番号を記入
- 3-2. 番号： 各事務所で整理している番号（枝番号を可とする）を記入
4. 地先名： 市・郡から番地までを記入（例. さいたま市中央区桜木町4-477-2）
5. センサス都道府県・支庁指定市コード： 道路交通センサスの都道府県・支庁指定市コードを記入（調査票のセンサスコード表を参考）
6. センサス調査単位区間番号： 道路交通センサスの調査単位区間番号を記入
7. 距離標： 少数第二位まで記入（単位：km）
8. 上り・下り： 「上り」もしくは「下り」と記入
9. 金属片の特徴
 - 9-1. 大きさ（長さ）： 長さを記入（単位：mm）（下図参照）
 - 9-2. 大きさ（幅）： 幅を記入（単位：mm）（下図参照）
 - 9-3. 突出量： 金属片の先端から防護柵面までのおおよその距離を記入（単位：mm）（下図参照）



9-4. 形状 : 形状を記入 (例. 三角、台形、長方形、棒状)

9-5. 材質 : 材質を記入 (例. 鉄、アルミ、プラスチック)

9-6. 磁石試験 : 金属片が磁石に引っ付く場合は「付く」、引っ付かない場合は「付かない」と記入

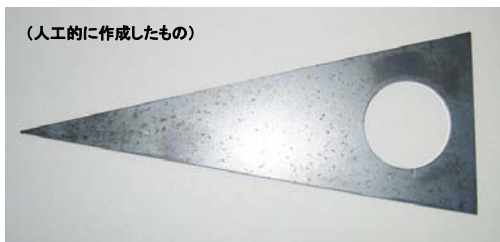
9-7. 厚さ : 金属片の平均的な厚さを小数第三位まで記入 (単位: mm) (厚さに関しては特に重要であるため、必ずマイクロメータにより計測する)

9-8. 錆の有無 : 錆の有無を「有」もしくは「無」で記入

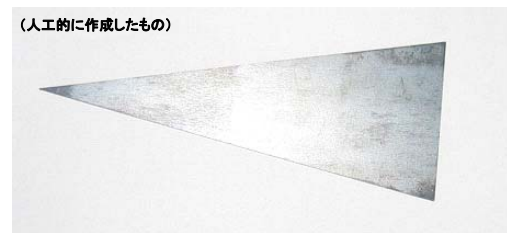
9-9. 塗料の有無 : 金属片に塗料があるかどうかを「有」もしくは「無」で記入

『9-10~9-14は車の衝突以外の原因 (故意に付けられたもの・看板の支柱として付けられたもの等)の可能性についても調査することを目的とする』

9-10. 穴の有無 : 金属片に穴が開いているかどうかを「有」もしくは「無」で記入



穴の有無:「有」



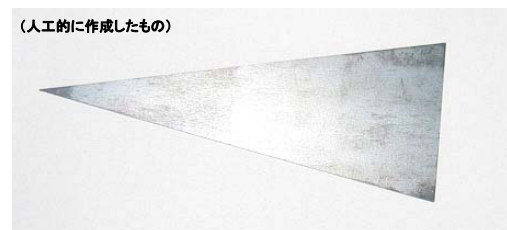
穴の有無:「無」

9-11. 面の凹凸 : 金属片の大部分が平な面で形成されている場合は「平面」、曲がったり、凸凹している面で形成されている場合は「曲面」と記入 (下図参照)

9-12. 破断面の状態 : 金属片の破断面が、引きちぎられたように波打っていたり、ギザギザになっている場合は「荒い」、人工的に作られた様に滑らかな場合は「滑らか」と記入 (下図参照)



面の凹凸:「曲面」 ・ 破断面の状態:「荒い」



面の凹凸:「平面」 ・ 破断面の状態:「滑らか」

9-13. ボルトの跡（ボルト部、端部ボルト部に付着した場合のみ）： 金属片のボルトに当たっていた部分が、潰されて形成された場合は「潰し」と記入、人工的に切り取ったように形成された場合は「切り取り」と記入、（下図参照）



ボルトの跡：潰し



（人工的に作成したもの）

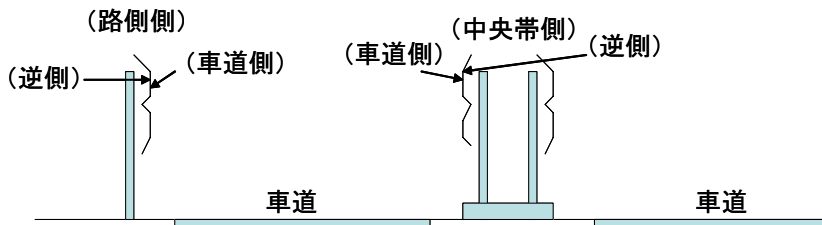
ボルトの跡：切り取り

9-14. 車の衝突以外の原因と思われるものについては、その状況を記入（例. 金属片に針金が巻き付いている、デリネータが破損したものが付着したと思われる）

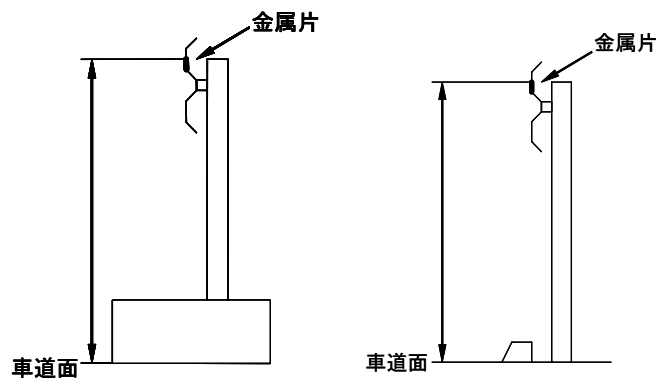
10. 金属片の付着状況

10-1. 防護柵の位置： 金属片が付着していた防護柵の位置を「路側側」および「中央帯側」で記入（下図参照）

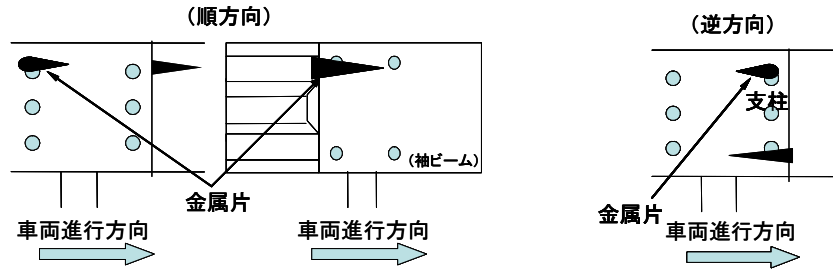
10-2. 防護柵の面： 金属片が付着していた面を「車道側」と「逆側」で記入（下図参照）



10-3. 車道面からの高さ： 車道面から金属片の中央部までの高さを記入（単位：cm）（下図参照。）



10-4. 状態 : 金属片の折れ曲がっている方向を「順方向」「逆方向」で記入する(下図参照)

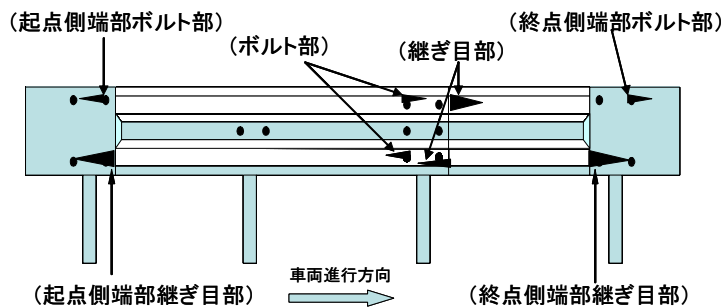


11. 金属片が付着していた防護柵の状態

11-1. 種類 : 防護柵の種類を「ガードレール」「ガードパイプ」「ガードケーブル」「ボックスビーム」「橋梁用ビーム型防護柵」のいずれかで記入(カナ半角入力)

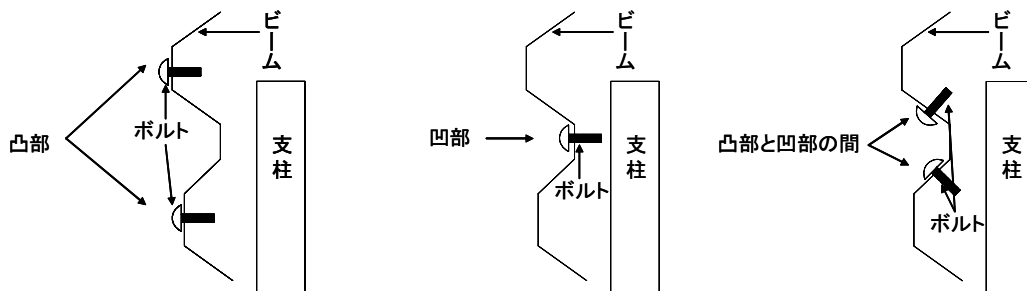
11-2. こすった or ぶつかった形跡の有無 : 「有」もしくは「無」で記入、「有」の場合、可能ならば痕跡の長さを記入(単位:cm)(例. 有(800))

11-3. 付着場所 : 金属片が付着した場所を「ボルト部」「継ぎ目部」「起点側端部継ぎ目部」「終点側端部継ぎ目部」「起点側端部ボルト部」「終点側端部ボルト部」「その他:〇〇」のいずれかで記入(下図参照)「その他」の場合具体的な場所を示す(例. その他:支柱)



11-4. ボルトの頭の形状 : 「角がある」もしくは「丸い」で記入

11-5. 付着位置 : 付着位置を記入(下図参考)(例. 凸部、凹部、凸部と凹部の間)



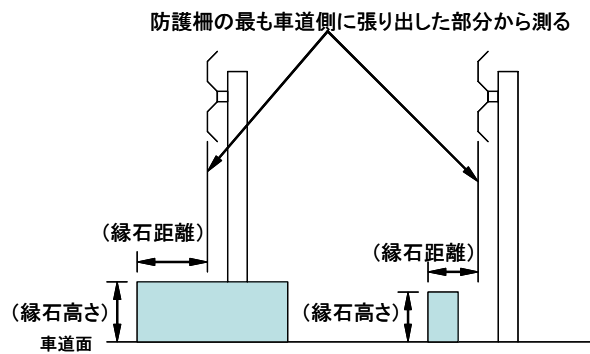
11-6. 支柱間隔 : 防護柵の支柱間隔を記入(単位:m)

11-7. 道路付属物の有無 : 金属片が付着していた防護柵の前後に、付属物が設置してある場合は「有」、無い場合は「無」と記入。「有」の場合は付属物の種類を記入する(例. 有(デリネータ))

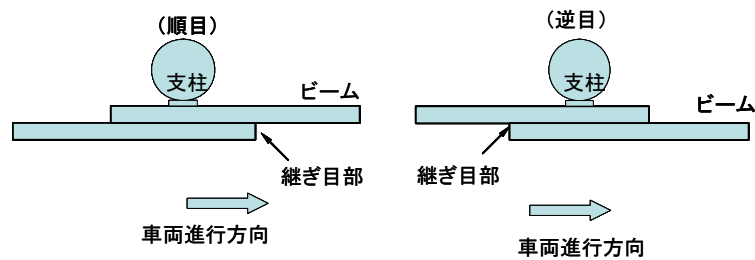
11-8-1. 縁石等の有無 : 車道と防護柵の間、もしくは防護柵の真下に縁石が有る場合は「有」、無い場合は「無」と記入、(アスカーブも「有」とする)

11-8-2 縁石等高さ(11-8-1で有の場合回答) : 車道面からの縁石の高さを記入(単位:cm)(下図参照)

11-8-3 縁石等距離(11-8-1で有の場合回答) : 縁石の車道側側面から防護柵の車道前側面までの距離を記入(単位:cm)(下図参照)



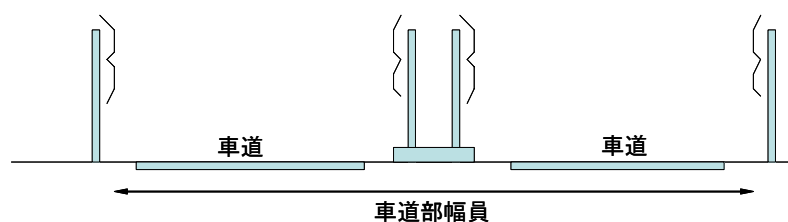
11-9. ガードレールの継ぎ目部の順目・逆目 : 「順目」もしくは「逆目」で記入(下図参照)



12. 道路状況と周辺状況

12-1. 道路の区分 : (例. 本線、ランプ、交差点、橋梁)

12-2. 車道部幅員 : 車道部幅員(下図参照)を少数第一位まで記入(単位:m)



- 1 2 - 3. 路肩幅員 : 路肩幅員を記入 (単位 : m)
- 1 2 - 4. 車線数 : 車線数を記入
- 1 2 - 5. 歩道の有無 : 「有」もしくは「無」で記入 (片側に有れば「有」と記載)
- 1 2 - 6. 道路線形 : 「直線」「右カーブ」「左カーブ」で記入 (曲率半径 1000m 以上の場合は直線とみなす) (カーブの方向は、金属片が付着した防護柵の直近車線の車両進行方向から見たものを記入)
- 1 2 - 7. 縦断勾配 : 縦断勾配を%単位で記入 (下りの場合は必ず「-」を付ける、上りは何も付けない) (金属片が付着した防護柵の直近車線の車両進行方向から見たものを記入)
- 1 2 - 8. 中央分離帯の有無 : 「有」もしくは「無」で記入、(ここでいう中央分離帯とは、上下線が物理的に分離されたもので、ポストコーンやチャッターバーのみが設けられているものなどは「無」と記入)
- 1 2 - 9. 沿道状況 : 「DID」「その他の市街部」「平地部」「山地部」のいずれかで記入
- 1 2 - 10. 防護柵接触事故履歴の有無 : 防護柵への衝突事故履歴について「有」「無」「不明」で記入
- 1 3. 所在または貸出先 : 現時点での金属片の所在を記入
- 1 4. 記入者 : 記入者名を記入

※写真番号が変わる場合 : 概略調査時 (H17.6.7 提出) と写真番号が変わる場合、または新たな金属片データを追加した場合は、右端の列 (BD 列) に新たな写真番号を入力。また、新たな写真番号を入力した場合は、写真についても提出する (写真のファイル名のつけ方、写真のサイズ調整は、概略調査時 (H17.6.7 提出) と同様に行う)